志貫徹に勇気を持て

岩崎学長 新入生へ訓示

本年度大学式は経済学部十一日法文学部が十二日とそれぞれ午後五時から三階講堂で挙行された。さきに行われた試験によって、厳選された千四百余名はこの日、定刻過ぎから続々とつめかけ、正門をくぐって新しい大学生活の第一歩を印した。

式は関学の辞に引続き、学部長の祝辞、学長訓示があった後、新入生総代の答辞があって、盛会裏に幕を閉じたが、岩崎学長は学部別大要次のような訓示をおこなった。

諸君は大部分の人が浪人時代職業をもっていることと思う。いわば、諸君は働きつつ学ぶとともに、学びつつ働くのである。しかし、幸にして本学へ入って来られた以上、自分は事情あって高職していないので、その本分はあくまで学生として、学問を探究することが諸君の使命である。諸君の危機は六ヵ月から一年目にある。この時期に歯をくいしばったならば、必ず諸君は立派に学究を終えることができるだろう。

昨、朝日新聞が終戦の大原人学を本学に依頼して来たことがあった。勿論、学費も社で支給して勉学させたものであるが、世の中がせこせくなって、このような理解ある新主はほとんどなくなった。また、諸君が大学に学ぶことについて、あまり心よく思っていない傾向もあっていることも思う。しかし、諸君は苦学をもってこれにあたり、諸君の志を完徹されることを望みたい。

今年は関西大学の七十周年にあたる。この光輝ある歴史はともあれ、夜間部から出発した本学七十年の歴史である。諸君はこの自覚と誇りをもって、勉学に励まれたい。

なお式の後、翌日以後の指示が教務課から行われ、十三日には共位履修規則の説明などが各学部別に行われた。またすでに入学式当日には学友会各パートとも優秀な新人を獲得するために正門前に机を並べ受付けるという豪華さで、新入生の眼を輝かせた。

新入生座談会

有意義な大学生活を勤務とは両立させる

思い出多かった高校生活を〝栄光〟とともに別れを告げて卒業、その苦労の末あって入試、合格発表、入学式というコースも順当に、夜学生として力強く第一歩を踏みだした新入生の代表五名に、入学式の興奮もまださめぬ十二日の午後八時、本社編集室に集ってもらい、われわれにとっては無理な問題である〝職場と勉学を如何に両立させるか?〟を中心に、入学に当っての抱負、感想など、関西大学一日あるの記を語ってもらった。

(写真は向って右から廻さん、坂下さん、福吉君、津村君、正延君―本社編集室にて)

―皆さん大学おめでとうございます。関大の学生生活第一歩を踏み出されたわけですが、皆さんは展望、職業をもっておられますか。

正延　特に定石無。

津村　僕はパルプ関係の会社に勤めています。

―女の方はどうですか。

坂下　府庁なんです。

福吉　職をもっていないのは僕だけかいな。生来、いたってのんびりしている方だから(笑)

―福吉君以外職をもっておられるようですが、勉学と勤めを両立させ行く自信はありますか。

廻　会社に理解がないので困っています。学校へ行けば仕事が十分出来ないと相当冷い眼で見られているのです。結局、どちらか一本やっこ行かなければならないと思います。ので、会社を止めようかとも思っています。

正延　僕の場合、会社の信頼関係は非常に大変なものです。

―皆さんは職場生活を〝栄光〟とともに別れを告げて来、その苦労の末あって入試、合格発表、入学式というコースも順当に、夜学生として力強く第一歩を踏みだした新入生の代表五名に、入学式の興奮もまださめぬ十二日の午後八時、本社編集室に集ってもらい、われわれにとっては無理な問題である〝職場と勉学を如何に両立させるか?〟を中心に、入学に当っての抱負、感想など、関西大学一日あるの記を語ってもらった。

(写真は向って右から廻さん、坂下さん、福吉君、津村君、正延君―本社編集室にて)

―先輩の入学式で、学究道、諸君の危機は六ヵ月から一年目までにある」と訓示されましたが、皆さんどこの点、自信がありますか

廻　さっき言いましたように、会社の理解がないため、何だか自信がないような気がします。

福吉　単なる憶測で、口で言う程ではないんでしょう。

―いや、やはり経験からでも確かなことらしいですよ

津村　僕の場合は自信がありますね。

―まあ、この学校へくられて初めて学長の訓示を聞かれたわけですが、印象はどうです

廻　ユーモアのある訓示で、どことなく信頼が抱けるように感じました。それとともにこの学校が夜間学生に対して非常に理解のあるように思います。

坂下　同感ですね。

福吉　表面しゃーモアたっぷりだが、案外芯は固いように感じたんだがね。

正延　まだ最初なんで、はっきりしたことはいえないですが、僕はやはり信頼出来ようと思いますね。

―どこで皆さんは活潑時代クラブ活動をやられたことがありますか。また今後何かやろうと思っていますか。

正延　僕は写真部に入っていました。まだ何もわからないので、確かなことはいえませんが、新聞でもやりたいと思っています。

津村　高校ではテニスをやっていました。夜間の場合、体育部の現状はどうなっているんですか。

―やはり野外のスポーツは少なく、ほとんどが室内競技ですね。

福吉　僕は新聞をやりたいと思っている。

―女の方はどうですか

坂下　私もそうです。

廻　私もやってみたいと思っていますが、まだ入学して一日ですから……。

福吉　受験、入学式を通じて感じたことなのだが、もう少しきれいだと思っていたので、ちょっと幻滅を感じたね。

一同　同感ですね。

―案内書に偽りありですか(笑)

廻　ということで学生の中には固定、私立という区別をする人があるようですが

福吉　そんなことはないね。ただ授業料の高いのが難点だが(笑)交通の便もよいので、最後の土壇場になって、受験生殺到張り出して、残っていたのを見つけて受けたんだ(笑)

正延　僕は旧制の専門学校を出て、数年のブランクを置いて、新制学制の三年に編入したんですが勿論、そのような考えは持っていませんね。

津村　夜間講座を置いているところでは公立の中大、私立では関大しか受けるようなところがないんだ。ことに関大の法科と商学部は、実際こういった活動でもしない限り学生生活の面白さはおろか、友達をも知る機会がないだろう。新入生と交代に今年も多くの先輩を送り出した。就職戦線も一段落ついたようだ。だが決して百パーセント決定したのではない。しかも人間の平均年令は年々長くなっている。人口は増々膨れ上って生存競争は激しくなるばかりだ。どうにもかゝわらずその打開策されは一向に進捗しない▼こう考えてくると大学でもなにか将来の生活の心配の余りおち〳〵勉強も出来ないのは無理からぬ事だ。われわれ学生にとって苦しい生活の中でも何はともあれ学問に勉学に身を打ち込むことによって学生の本分を尽くすべきだ▼政治の貧困を原因とするものはもちろんだが、単に国内的な問題だけでは解決出来ない。就職問題でも人口問題でも国内的制限のみを安心していられるものではない。このことのみに限らず物事すべてこうだ。よく見極め、よく考えてわが心を決めなくてはならない。

論説

平和的共存の一段階

現代の上に立たされた責任をおもうとき、一方では三月余円の大金を払って入学してくる貧困浪人の明、しかもこの明の中には大学の真のダイ味を味わうことなく、単に卒業証書を目当てに大学式を終えて入学してくる者も確かワンサとあるのだから解説の大学といわれた関西大学も随分ヒフル化したものである。

◎…「歴史は繰り返す」のコトワザ通り、昨年度は十一月末に幾行都主演の全学連加盟問題が定期学友会という劇場で上演された。全学生の疑問を無視した派閥抗争はもうお断り、今年はもっと立派な学園にするようにお互が自覚したいとは、七十年の伝統が泣き顔をしている。

◎……一部の学友会学研祭の接待費をめぐって費用の使い込み、いわゆる不正会計事件がおこった様な問題が繰り返されたが、それから三ヵ月とたぬ二月末には問題の原をかいて作業および提出会議、効果法律研究部、特別出版委員会行委員長という豪華な顔ぶれによる全学連脱退という第二の茶番劇が上演された。全学生の疑問を無視した派閥抗争はもうお断り、今年はもっと立派な学園にするように自覚したいとは、七十年の伝統が泣き顔をしている。

◎……一部の学友会学研祭の接待費をめぐって費用の使い込み、いわゆる不正会計事件がおこった様な問題が繰り返されたが、それから三ヵ月とたぬ二月末には問題の原をかいて作業および提出会議、効果法律研究部、特別出版委員会行委員長という豪華な顔ぶれによる全学連脱退という第二の茶番劇が上演された。全学生の疑問を無視した派閥抗争はもうお断り、今年はもっと立派な学園にするように自覚したいとは、七十年の伝統が泣き顔をしている。

日本人の意識と日本人がもっている大きな損失との間の溝がスレに深くかゝわれわれは絶えずしかも一歩おやまって重大な結局にたち至ったら日本の各地はロンドンよりも、パリよりも、直接に被害にさらされるのである。

今日、新聞のラジオによる無線を通じて国際政治が重大な転機にのこんでいるとを知り、その緊張を憂えているが、その緊張の焦点がどこにあるか、その緊張がどの程度に達しているかを理解しなければ、少くとも指導層の上にかゝられたまゝで危惧は去らない

セクサス事件をめぐって

文学部助教授　川口　勇

「セクサス」が発禁になったというので、この事件についての意見を求められた。恐らく「チャタレー」の事件もあったあとだし、ジャーナリズムとしてとり上げさるを得ないと考えたのだろうと思う。ところが、これは余り成功とはいえない。世間は今度の場合をそんなに大きい事件と考えていないフシがあるからである。

この意見を求められた頃、丁度日本心理学会の大会が京大で催されて、悪質仲間が全国から集って来た。僕はこれらの仲間に「セクサス」の発禁事件についての情報を提供し見たが、すっかりアテが外れて、この原稿の資料を得ることは出来なかった。試みに評者が絶ってき及人に「セクサスの作者は誰で、翻訳者は誰か、そしてどこから発行されたか」等の質問を出し見られると、殆ど満足に答え得る文化人（？）はまずまず得られないことだろう。この点、チャタレーの方にはまだ少くとも伊藤整が訳した頃くらいは誰もが知っている。作者がローレンスであることも多くの人が知っているだろう。僕の悪質仲間たちも、セクサスがヘンリー・ミラーの作品で、「バラ色の十字架第一部・セクサス」というのであり、大衆雑誌が訳して新潮社から出たものであることを誰も答えられなかった。僕はその前夜にカンニングをしておいた為で、こんなことにかけては大した物知りだということになって、面目（？）を新たにしたのである。

チャタレーの方は、裁判沙汰になって文化人が立ち上ったりして華々しい論戦を展開したが、今度の場合はそれがなかった。期日や毎日などの日刊新聞も、三月十四日の夕刊で一斉に報道したが、その後は十五、六日ごろに一度掌篇評論風の記事を二つ扱っただけである。内容や扱い方の違いなどは別として、チャタレーに比べてセクサスに関の少しとさい えそうである。ヘンリー・ミラーに比べてローレンスの方がはるかに有名だし、内容の違いもあることだし、何よりも今度の場合は、伏字に当る部分が英語の原語で出版されていることが問題になっているようである。成る程われわれの青春時代を想い出し見ても、友人の一人が一生懸命に「アウスト」の伏字を調べて来て、ここは「小羊は良い」だなどと得意になっていたのを思い出す。しかし、そんな個所が非常に多いからについて青年が特別に期待するということもないのではないだろうか。そんなことよりもヒロポンの方が社会的に大きい問題だろうし、大年をそこなうのであることを知るべきであろう。

セクサスが世論の笑殺得かったことは、あるいまでの内容や扱り扱い方に問題があったかも知れないし、伊藤整のような男が訳者でなかったことにも起因するかも知れないが、ことに二つ大きい問題がよこたわっているように思う。それはチャタレー事件が余りにも華々しく取り扱われ、伊藤整の扱り目のなさをも大いに効果があって、余りにも大きい事件になり過ぎたところから、セクサス事件が世論の冒涜にうまくおちこんでしまったというこの辺の社会心理を説くべきだとしたら恐しいことである。どうせ文化のプの字も無縁のゲの字も理解しようともしない連中の仕事だが、誘引にやってのけることと世論の良をかくことと位ばか怪いる連中だから、恐ろしいことだというのである。チャタレーの結果が世論の支持によって成功したとしても、次に出し来る小さい事件、著者も発表も一般に記憶されていない程の発禁事件が、次はいつの間にかチャタレーでわき立つた世論というものを突然に冷抜きにしてしまえるのである。

僕は、セクサス事件を一つの契機として、一般論をもっと深く考えたいのである。僕たちの行動を監視している奥さんの目をごまかす最もいい方法は、今の生活に割合当りさわりのない昔の行状を出来るだけクローズアップして話しをかせる。奥さんは大いに激怒し、批難してくる。こうなれば こっちのもので、大いに激論して弁護し、とと面倒なところでカブトをぬぐ。するとその後のコマゴマとした事件などは奥さんの感情をたかめるだけのものになってしまうし、それを何度か繰り返している中にすっかり奥さんの世論は抜きさしならぬ世間は何のギャップも感じないでいるのだろうか……このような疑問に対する解答を得るために三年前、昨年夏以来中断していたのを今回思を新たに再出発することにしました。御寄見、御批判を期待します。

法学部四年次生
T・S（三）君の場合

「扇の力を抜いて……、大きく息を吸い込んで……、ハイ息を止め」

屋間は勉学に、夜間は仕事にと二つの異った生活の中に自己の道を切り開こうとする夜間学生の果して学生は何のギャップも感じないでいるのだろうか……このような疑問に対する解答を得るために本紙がルポルタージュ「私の場合」を設けたのは三年前、昨年夏以来中断していたのを今回思を新たに再出発することにしました。御寄見、御批判を期待します。

君の勤務する職場である。

法学部四年次生
T・S（三）君の場合

「扇の力を抜いて……、大きく息を吸い込んで……、ハイ息を止め」

ルポルタージュ
"私の場合"

生きるためとは言え…

放射能に囲まれた三年間

屋間は職場に、夜間は勉学にと二つの異った生活の中に自己の道を切り開こうとする夜間学生の果して学生は何のギャップも感じないでいるのだろうか……このような疑問に対する解答を得るために本紙がルポルタージュ「私の場合」を設けたのは三年前、昨年夏以来中断していたのを今回思を新たに再出発することにしました。御寄見、御批判を期待します。

君の勤務する職場である。

法学部四年次生
T・S（三）君の場合

「扇の力を抜いて……、大きく息を吸い込んで……、ハイ息を止め」

ルポルタージュ
"私の場合"

生きるためとは言え…

放射能に囲まれた三年間

「ブー「ハイおわりました」

器のニオイにまじって放射線などの生みだす特有のニオイがみなぎる室、これがレントゲン技師S所へ出て来た君をとらえて「私の場合」を聞いてみた。

二部の学生として一番問題になるのは職場の職場に対する作業時間と夜の勉学の時間の関係なのでしょうがないのの意味の感じ。

「職場は、勉強の妨げにならないようにしてもらえるのですか。」

「職場は、勉強の妨げにならないようにしてもらえるのですか。」

「職場は、勉強の妨げにならないようにしてもらえるのですか。」